

## 【展示のご案内】



## リボル・フォイテック写真展

### 「TRAMPS チェコの中で生まれたサブカルチャー」

2022 年 8 月 24 日（水）～10 月 7 日（金） / チェコセンター東京（渋谷区広尾）

2022 年 8 月 25 日（木）～9 月 11 日（日） / ミュニケーションギャラリー ふげん社（目黒区下目黒）

今からおよそ 100 年前、建国と同じ頃のチェコスロバキアでは、アメリカ文化に影響を受けた「トランピング」と呼ばれるアウトドア・アクティビティが盛んになり、やがて国内最大のサブカルチャーへと発展していきました。山で過ごし、狩猟や木彫り、山登り、スカウト運動、カントリー音楽など、独自のトランピング文化を楽しむ人々「トランプ」たちを捉えた写真作品を、渋谷区広尾のチェコセンター東京および東京都目黒区のコミュニケーションギャラリーふげん社の 2 会場で行います。

詳細：<https://tokyo.czechcentres.cz/ja/program/tramps>

Česká centra

Václavské nám. 816/49, 110 00 Praha 1

T: +420 234 668 211, F: +420 234 668 215

E: [info@czech.cz](mailto:info@czech.cz), <http://www.czechcentres.cz>

## 開催概要

### 第一会場

- 会期：2022 年 8 月 24 日（水）～10 月 7 日（金）
- 休館日：土日・祝日、9 月 30 日（金）
- 開館時間：10:00～19:00
- 会場：チェコセンター東京  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 2-16-14  
（チェコ共和国大使館内）  
<https://tokyo.czechcentres.cz/ja/>

### 第二会場

- 会期：2022 年 8 月 25 日（木）～9 月 11 日（日）
- 休館日：月曜日
- 開館時間：火-金 12:00～19:00、土・日 12:00～18:00
- 会場：コミュニケーションギャラリー ふげん社（2F Papyrus ギャラリー） <https://fugensha.jp>
- 〒153-0064 東京都目黒区下目黒 5-3-12 tel: 03-6264-3665

※それぞれ異なる写真作品を展示予定です。



## プロジェクト「Tramps」について

キュレーター トマーシュ・ポスピエフ

写真シリーズ「Tramps」は、かつて若かった、そして今でも若くあり続けている、心に冒険心を抱え、星の下で眠ることと惹きつけられていたすべての人へのオマージュである。

トランプ（トランピングをする人）と名乗るのか、あるいはウッドクラフターや放浪者、浮浪者、カウボーイと名乗るのか、果ては森の小屋の屋根に衛星まで取り付けしてしまったのかは関係ない。彼らは皆、チェコスロバキアでほぼ局地的に広がり、チェコ最大のサブカルチャーとされているトランピング現象の一端を担っているのだ。

現在、このチェコで巻き起こった現象をまとめた視覚的な証が残されていないため、この企画では、この特有の現象を記録することを目的とし、ボヘミアとモラヴィアのトランプの生活に焦点を当てている。この企画は現場研究のようなもので、チェコ共和国の様々な地域をまたがって撮影が行われた。1912 年より活動が始まった「森の知恵同盟」や、ウッドクラフト、スカウト、そしてアメリカの西部劇に影響を受けたトランピングは、当時の社会・政治的情勢に対しての我慢の中で生まれた新たな文化という側面を持ち、旧チェコスロバキアにおける一大ムーブメントとなった。米国作家ジャック・ロンドンの小説によれば「トランプ」という概念は、一方では一般的な社会的慣習を尊重せずに社会のはずれにいる人間を表現し、また他方では友情、帰属意識、自然への憧れ、そして消費主義や視野の狭い都会人への反発に基づいた運動とも関わりがあるという。社会体制や政治情勢の変化の中で、このムーブメントは抜本的な変化と再興を乗り越え、今日まで何らかの形で生き残っている。このプロジェクトは書式、展覧会、そして短編ドキュメンタリー映画の実現を目指している。

Česká centra

Václavské nám. 816/49, 110 00 Praha 1

T: +420 234 668 211, F: +420 234 668 215

E: info@czech.cz, <http://www.czechcentres.cz>

## プロフィール

### Libor Fojtík (\*1977) リボル・フォイチーク

オパヴァ・シレジア大学創造写真学部修士課程修了。フリーランスの仕事では主にドキュメンタリー写真とアレンジ写真を扱う。ドキュメンタリー作品は日本、インド、ロシア、ベトナム、モンゴル、ニュージーランドやその他多くの国で長期滞在した際に生まれたものである。チェコで撮影したシリーズの中では、消費社会や社会変動、環境問題、日常生活における不条理などに焦点を当てている。2007 年にフォトエージェンシー ISIFA のフォトレポーター就任。2009 年からはチェコの日刊紙ホスポダーシュスケー・ノヴィニのカメラマンとしても活動。過去には、プラハのデジタルフォト学院にて通年クラスの指導にあたった。シリーズ『Absurdistán – domov můj (Absurdistan – my home)』は、FRAME 写真コンテストにて最優秀賞、チェコ・プレス・フォト 2010 の“日常生活”部門でも最優秀賞を獲得。ハノーヴァーで開催された若手フォトジャーナリストのためのコンテストである LUMIX 国際フォトフェスティバルでは 60 人のファイナリストに選出された。チェコやヨーロッパで多くの個展・合同展を開催。

### Tomáš Pospěch (\*1974) トマーシュ・ポスピェフ／キュレーター

大学教員、写真家、美術史家、キュレーター。オパヴァ・シレジア大学創造写真学部卒業。パラツキー大学オロモウツやプラハ・カレル大学でも美術史を学んだ。1997 年よりオパヴァ・シレジア大学創造写真学部で准教授を務める。プラハ装飾芸術美術館にて写真コレクションのキュレーションも行っている。

### 《ご来館にあたってのお願い》

感染症拡大防止のため、下記の取り組みについてご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。なお、今後の状況によっては、臨時休館や展覧会・イベントの中止等の可能性もございますので、最新の情報はチェコセンターのウェブサイト・SNS にてご確認ください。

- マスクの着用をお願いします。スタッフもマスクを着用しご対応いたしますので、ご理解ください。
- 入口での手指の消毒にご協力ください。
- 発熱、咳等の風邪症状のある方はご入場を遠慮願います。（激しく咳き込まれる等の症状のある方には、スタッフがお声がけし、ご退館をお願いする場合がございます）
- 観覧の際は、互いに適切な距離（2 m 程度）を保つようお願いいたします。
- 飛沫拡散防止のため、展示室内等での会話はできるだけお控えください。



**本企画に関してのお問合せ**

チェコセンター東京

150-0012 渋谷区広尾 2-16-14 チェコ共和国大使館内

TEL 03-3400-8129

[cctokyo@czech.cz](mailto:cctokyo@czech.cz)<http://tokyo.czechcentres.cz/jp/>

●チェコセンターは 3 大陸 26 都市においてチェコ文化の普及につとめている、チェコ外務省の外郭団体です。